

科目名	日本文化研究A			ナンバリング	JPN251	授業形態	講義
対象学年	3年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	帆苺基生	担当教員					

授業の概要	ペンとアップル、ペンとパイナップル。異質なものを組み合わせひとつの(架空の)存在として、言葉と身振りで提示するピコ太郎「PPAP」の動画には、言葉と想像力をめぐる私たちの認識の問題を考える上でのヒントが隠されている。また、その世界観を共有することによって、存在しないはずのものが実体化し、時に可視化することもある。ないはずのものがある、あるいは、あるはずのものがない。それによって出来事が進展していくのだとするなら、欠落や空白こそ、さまざまな物語を読み解くための重要な手がかりとなるはずだ。本科目は日本語で書かれた近現代文学作品及び、演劇・映画作品に描かれた「空白・欠落」を読み解き、私たちの想像力がそこいどのような作用を及ぼしていくかを考察すること、また、虚構作品におけるそれらの役割について追求していくことを目的とする。
到達目標	1. 虚構作品における欠落や空白の意味について説明することができる。 2. 虚構作品における欠落や空白と私たちの想像力の関係について意見をまとめることができる。 3. 虚構と現実の境界線を言葉に即して引き直すことができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	文学系の授業はとにかく次回扱うテキストを読んでくるのが大切です。予習はそれだけで構いません。その代わりに、授業後はしっかり時間をかけて扱ったテキストから読み取れる言葉と想像力の問題について、文章化できるようにしてください。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 虚構作品における欠落や空白の意味について簡潔に説明することができる。 2. 虚構作品における欠落や空白と私たちの想像力の関係について簡潔に意見をまとめることができる。	1. 虚構作品における欠落や空白の意味について複数の具体例を挙げて説明することができる。 2. 虚構作品における欠落や空白と私たちの想像力の関係について複数の具体例を挙げて意見をまとめることができる。 3. 虚構と現実の境界線を具体例を挙げつつ言葉に即して引き直すことができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○				30%
宿題・授業外レポート	○	○	○				60%
授業態度・授業への参加				○			10%

課題、評価のフィードバック	毎回授業時に提出してもらったレビューシートは適宜コメントを付けて返却する。レポートは必要に応じてコメントを付けて返却する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	シラバス記載事項や配付資料に基づき、虚構作品における空白や欠落と言葉の関係について概要を把握する	
	第2回	言葉と想像力①	笹野頼子「胸の上の前世」を読み、言葉と想像力の問題について考える	
	第3回	言葉と想像力②	石川淳「アルプスの少女」を読み、言葉と想像力の問題について考える	
	第4回	身体の不在、言葉の役割①	劇作家野田秀樹に関する資料を読解し、身体の不在と言葉の役割について考える	
	第5回	身体の不在、言葉の役割②	野田秀樹「バンドラの鐘」と「オイル」を読み、身体と不在と言葉の役割について考える	
	第6回	空間の構築①	夏目漱石「こころ」・芥川龍之介「羅生門」を空間という視点から読み考える	
	第7回	空間の構築②	いくつかの小説を通して〈都市〉の描かれ方を比較する	
	第8回	作られる〈歴史〉・語られる〈歴史〉①	百田尚樹「永遠の0」の語りに注目し、欠落したものについて考える	
	第9回	作られる〈歴史〉・語られる〈歴史〉②	石川淳「灰色のマント」と「八幡縁起」を読み〈歴史〉を語ることについて考える	
	第10回	作られる〈歴史〉・語られる〈歴史〉③	いくつかの小説を通して〈歴史〉の描かれ方を比較する	
	第11回	見えないものが見える①	〈亡霊的存在〉について「ハムレット」を通して考える	
	第12回	見えないものが見える②	林京子「ギヤマン・ピードロ」を読み、〈不在〉を描くことについて考える	
	第13回	見えないものが見える③	武田泰淳「ゴジラの来る夜」を読み、〈不在〉を描くことについて考える	
	第14回	虚構の批評性	虚構(＝フィクション)が現実に対して持つ批評性について考える	
	第15回	まとめ	本科目で扱ったすべての虚構作品に共通するものを言葉と想像力という観点でまとめる	
		試験	試験は実施しない	
授業の進め方		基本的に講義形式とするが、受講者に適宜感想や意見を求めていく。		
授業外学習の指示		次回読む小説や配付された資料は事前に必ず目を通しておくこと。授業後は講義をふまえ、小説や配付された資料を再読し、虚構作品と想像力の問題について各自の意見をまとめておく。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	授業で扱う本文はプリント配付の予定である。その他の本文は参考書として掲げておくが、関心のあるものについては適宜購入しておくこと。
参考書	授業時に適宜紹介する
参考URLなど	授業時に適宜紹介する
その他	